
恋姫十無双～現代デュエリスト乱入 場違いだらけの三国志演義

根暗ガードナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋姫十無双〜現代デュエリスト乱入 場違いだらけの三国志演義

【Nコード】

N06670

【作者名】

根暗ガードナー

【あらすじ】

平凡に暮らしていた笹原勇義、竜野統、浅田健は何時ものようにカード屋で遊んでいた。ふと気づくと何と荒野のど真ん中にいた！訳のわからないまま突如三人を助けてくれたのは女性化した三国志の英雄だった。

場違い三人がおくるはちゃめちゃストーリーここに始まる。

第一話 気がついたら・・・異世界？

2010年 - 現代 -

第三次世界大戦が始まり世界は核の炎に飲み込まれた。海は枯れ地上は砂漠とかし生物は死に絶えたと思われたがある種族・・・人類は生き残っていた！！

「笹原少年・・・先ほどから何をブツブツ呟いているんだ？」

「ん？ああ少し冗談を言ってたんだ」

まあ・・・そんな世界大戦なんか起こってる訳なく俺たちは何時もどおりカード屋でデュエルをしていた。

俺の名前は笹原勇義なみはらゆうぎ、ごく普通の高校生だ。成績ははつきり言ってる社会以外は悪いしルックスは・・・まあ悪いような悪くないような・・・正直泣きそうだ・・・。

「だから笹原少年よ・・・何を先ほどからひとり言を呟いているのだ？」

「なんでもねえよ」

目の前にいる奴の名前は竜野統たつのおさむ、俺のクラスメイト兼友人。

説明は・・・めんどくさいからいいか。

「少年、さすがにそれは酷いだろ」

「あれ？聞こえてた？」

「当たり前だ」

仕方ない説明してやるか・・・友人の中では唯一の常識(?)人。成績はいい方かな、ただたまにテンションが上がるとどこぞのル

「シユの様な高笑いをする結構な変人だ。」

「最後の説明・・・少々傷つくな・・・」

「何でお前さつきから聞こえてんだよ」

「おい・・・早くデュエルしろよ・・・」

俺の隣から地を這うような低い声が聞こえてくる

「浅田・・・もしかして機嫌悪い？」

「別に・・・やるなら早くしろ・・・」

この無愛想極まりない男の名前は浅田健、同じくクラスメイト兼友人。
あさただける

性格は理不尽で下手にボケると暴力というツツコミが帰ってくる。

ちなみに俺とは中学時代からの知り合いで他の奴よりは仲がいいほうだ。ただ言っておく・・・俺と浅田は別に出来てるわけじゃないぞ・・・こんな無愛想と付き合うなんて思ったら吐き気がしてくる。

「俺だつてお前と付き合いたくはない・・・」

「だからさつきから何でお前ら俺の心の声が聞こえるんだよ！！これじゃ俺の心のプライベートが筒抜けじゃねえか！！」

・・・プライベートなんて君にあつたのかな？

「あるわあああああ！！」

「少年、一体誰に叫んでいるんだ？」

「神の声の人じゃ！！」

そんな馬鹿みたいなやり取りをしながら俺たちは何時ものようにデュエルを始めた。

<視点・浅田・>

「いくぜっ!!E・HEROエアーマンを召喚!!」

「笹原・・・そんな大声で言う必要があるのか・・・」

まったく・・・こいつは何時こんな感じだな・・・。たしか笹原のデッキはE・HEROデッキだったか・・・後半戦に向いてないが爆発力は目を見張るものがある・・・

「エアーマンか・・・まあHEROデッキの常套手段か・・・」

「デッキよりE・HEROプリズマーを手札に加えて・・・俺はターンエンドだ」

「私のターン・・・ドロー」

竜野のデッキはシンクロ主体だったかな・・・ちなみに竜野は俺たちの中で一番強いな・・・まったくふてぶてしい狸だな・・・

「聞こえてるよ浅田」

「何のことだ・・・」

いかな・・・俺の心の声も聞こえていたみたいだ・・・

「なら私は・・・サイバードラゴンを特殊召喚、さらに魔法カード調律を発動」

確かあれはデッキからシンクロンと名のついたモンスターを手札に加えるカード・・・結構高いんだよなあれ・・・

「デッキよりジャンクシンクロンを手札に加え、更にジャンクシンクロンを通常召喚する」

このパターン・・・シンクロか・・・

「シンクロ召喚、我が魂レッドデーモンズドラゴン」

出たな竜野の切り札レッドデーモンズドラゴン・・・攻撃力は3000、あのブルーアイズと互角に戦える力を持つが・・・はつきり言ってるデモンは弱いな・・・何であいつがあれを使ってるかって？あいつは言っていた、弱いからこそ面白いと・・・。

「では、アブソリユートパワーフォース」

「うおっ!!!1200ダメージ食らっちゃった!!!」

1200食らってるあいつの残りライフは6800か・・・まあいつもの笹原なら何とかするけどな・・・

「カードを一枚セットしターンエンド」

「俺のターン!!!よっしゃきたー!!!手札から融合発動!!!」

きたか・・・笹原の切り札のひとつ・・・

「手札のフォレストマンとプリズマーを融合!!!融合召喚!!!E・HEROガイア!!!」

E・HEROガイア・・・召喚に成功したとき相手モンスターの攻撃力を半分にしその半分を自分の攻撃力に加える・・・よってガイアの攻撃力は3700・・・

「ガイアでレッドデーモンズを攻撃!!!コンチネンスタルハンマー!!!」

笹原のガイアが竜野のデモンを倒した・・・

「俺はこれでターンエンドだ!！」

「さすがだな笹原……ん?」

気のせいか……。さつきから風が吹いているような……。窓でも開いているのか?それにさつきまで賑わっていた店内がいやに静かだ。
・
・

「何かあったのか……?」

俺は周りを見渡してみた。すると……

「なっ!?!」

さつきまで俺たちはカード屋にいたはずだ……。なのに俺の目に映るのは果てしなく広がる荒野だった……

「こ……これは一体……」

「私のターン、ドロ」

おい……。お前ら何してる……。こんな状況でなにデュエルしてるんだ……

「おい笹原……。ちよつと回り見てみる……」

「あゝ後にしろよ、今考え事してんだから」

そんな状況じゃないんだよ!!

「おい竜野!! 大変なことになってるぞ!！」

「少々黙っている、リビンググデッドの呼び声発動、墓地のレッドデーモンズドラゴンを復活させる」

「いつてえ〜いきなり何すんだよ」

「お前らが無視するからだ・・・それより周りを見てみる・・・」
「周り？周りが何だつて・・・」

そこで俺はようやく異変に気がついた。さっきまでカード屋にいたはずなのに周りに人がいない、それどころか今俺の目の前に映っているのは果てしなく広がる荒野だった。

「な・・・なんだこりゃ・・・」

俺は今おきてることが理解できなかった。いや、理解できるほうがおかしいかな。

だがこれは始まりに過ぎなかった。この先数々の出会い、幾多の戦い、悲しき別れがあることなんて今の俺・・・いや・・・今の俺たちに分かるはずなかった。

第一話 気がついたら・・・異世界？（後書き）

はじめまして、根暗ガードナーです。いやゝ訳のわからない小説ですみません。なにせ初めて書いたものなので（苦笑）とりあえず何かアドバイ斯科かももらえたら嬉しいです。地道に続けていきますんで温かい目で見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0667o/>

恋姫十無双～現代デュエリスト乱入 場違いだらけの三国志演義

2010年10月9日07時08分発行